令和元年度　輪島市立鳳至小学校　後期 学力向上プラン

プラン名　互いに関わり合いながら集中力・持続力アップ！（７０％）

*12か条＋（プラス）*

*６条*

１　授業づくり

⑴　現状・課題（Ｒ）

|  |  |
| --- | --- |
| 課題 | 現状（科学的データ） |
| ・時間内に文章及びその内容を読み取る力が不足しているため、問題を解く意欲が続かない。だから解けない。 | ・国語科評価問題３三…正答率12.8％（無回答20.5％）「店長の発言を受ける」ということは、どう書けばよいのか理解していない。そのため無回答も多い。  ・算数科評価問題７…正答率21.1％（無回答率21.1％）「気温の差」に着目しなければいけない問題であるが、グラフの形に着目しているため題意にそった解答ではない。また、無回答も多い。  [要因]  ①普段の記述内容が適切ではない児童への手立てが不足している。  ②語彙力、読解力が身についていない。  ③「どうせわからんから」と学びに向かう気持ちが継続しない児童がいる。  ④問題の後半で、無解答が増えている。（通過率が３０％以下の児童に無回答が多い。） |

⑵　計画と実行（Ｐ・Ｄ）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 後期目標 | 具体的取組 | |
| ・最後まで「読もう」「聴こう」「解こう」とする意欲をもたせる。 | ・学び合う必要性のある学習課題の設定に努める。  ・ペアやグループ活動で、ノートにラインをひいたりホワイトボードを使ったりして、児童同士でわからないところを聴けるようにする。（聴き方のスキルUP）  ・言葉の意味を問い返し、関わり合わせることで語彙力を増やしていく。  ・「聴く」・「話す」ルールを徹底する。（声の大きさ、指さし等）  ・「Let’s　Try」（用語、既習内容、資料の見方・考え方、児童の考えの手がかりを示すもの）」の活用を継続する。 | |
| 評価項目 | | 評価  （結果） |
| ・授業の終わりに課題に対しての考えを適切に書いている児童の割合。（７０％）  ・児童アンケートで「自分の考えを書くことができる。」にA「よくあてはまる」と回答した児童の割合。（70％…中期「よくあてはまる」60.3％）  ・ノート検証の結果、自分の考えを説明できるように書いている児童の割合。（70％…中期「自分の考えを書いている児童の割合」69.1％） | |  |

⑶　検証と改善策（Ｃ・Ａ）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 | 評価項目（誰が，いつ） | 結果 | 改善策 |
| １ | □適用問題達成率（月２回）  □ノート検証（体制、第３週） |  |  |
| ２ | □適用問題達成率（月２回）  □ノート検証（体制、第３週）  □基礎学、県評価問題Ⅱ（3年、5年） |  |  |
| ３ | □適用問題達成率（月１回）  □ノート検証（体制、第３週）  □児童アンケート（体制、第２週） |  |  |

２　基盤づくり

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 後期目標 | 具体的取組 | 評価 |
| ・条件に沿って自  分の考えを書くことができる。  ・話をする人の方を見て、聴く。 | ・「系統性をもたせた短作文の取組」をする。（月に１回検証）  ・スタディーマナーのうち、聴くことを最重点項目として取り組む。（７０％）  中期：A「よくあてはまる」と回答した割合  「発表している人の方を向いて聴いている」51.9％  「話し合いで相手の考えを最後まで聴いた」61％ |  |